ボーリング柱状図

調　査　名　　一般県道町川原福岡線地質調査業務委託

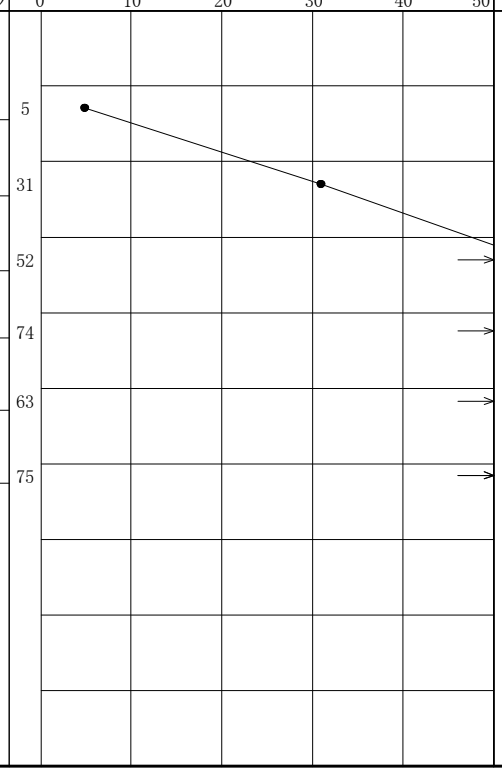
事業・工事名

ボーリングNo.										

シートNo.

ボーリング名	No.3	調査位置	福岡市東区下原1丁目地内外						北緯	33°40'27.3"
発注機関	福岡市道路下水道局東部道路課			調査期間	平成27年9月4日 ～ 27年12月2日				東経	130°27'19.2"
調査業者名	新地研工業株式会社 電話(092-611-5211)	主任技師	徳田充樹	現場代理人	山下堅志	コア鑑定者	徳田充樹		ボーリング責任者	濱田修一郎
孔口標高	31.07m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試錐機	東邦製D0-D	ハンマー落下用具	自動落下
総掘進長	6.25m								エンジン	ヤンマー製NFAD10	ポンプ	東邦製BG-3C

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験(　)	掘進月日
1	29.87	1.20	1.20		礫混じり砂質粘土	灰～暗灰			上部はコンクリートとクラッシャランであるが，礫混じり粘土が主体である。		1.15	2	1	2	5／30							
	29.62	0.25	1.45		砂	黄灰			中砂が主体である。		1.45											
2					礫混じりシルト質砂	暗黄褐	密な		粒子の固結化が進んでいるが，おがくず状を呈し軟質である。 揉みほぐすと土砂状になる。 礫はφ30～40mmであるが，風化しており砕けやすい。		2.15	7	9	15	31／30							
3											2.45											
	27.15	2.47	3.92								3.15	13	19	18／9	50／29							
4					風化砂岩	黄褐～青灰			深度5.00mまでは中粒砂岩～粗粒砂岩からなる。 深度5.00～6.00mは礫岩状であり，礫間は凝灰質で軟質である。 全体的には軟岩(I)相当の岩盤である。		3.44											
											4.15	4／7	19	24／2	47／19							
5											4.34											
											5.05	16	23	11／4	50／24							
											5.29											
6	24.82	2.33	6.25								6.05	20	30		50／20							10／9
											6.25											
7																						
8																						
9																						



・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があり、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。